

20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 130 1 2 3 4 5

L294
7

秋
月
集
卷
一



6703

秩父順拜記（一名秩父名所誌）

文政十三年九月江戸の文人獨

笑庵竹村立義が石川某と共に

に武藏の秩父三十四所觀音靈

場を順拜せる時の紀行なり恐

らく未刊本なるべし立義には

文化十五年三月に川越松山の紀

の紀行あり余先に所収書に

収載あり

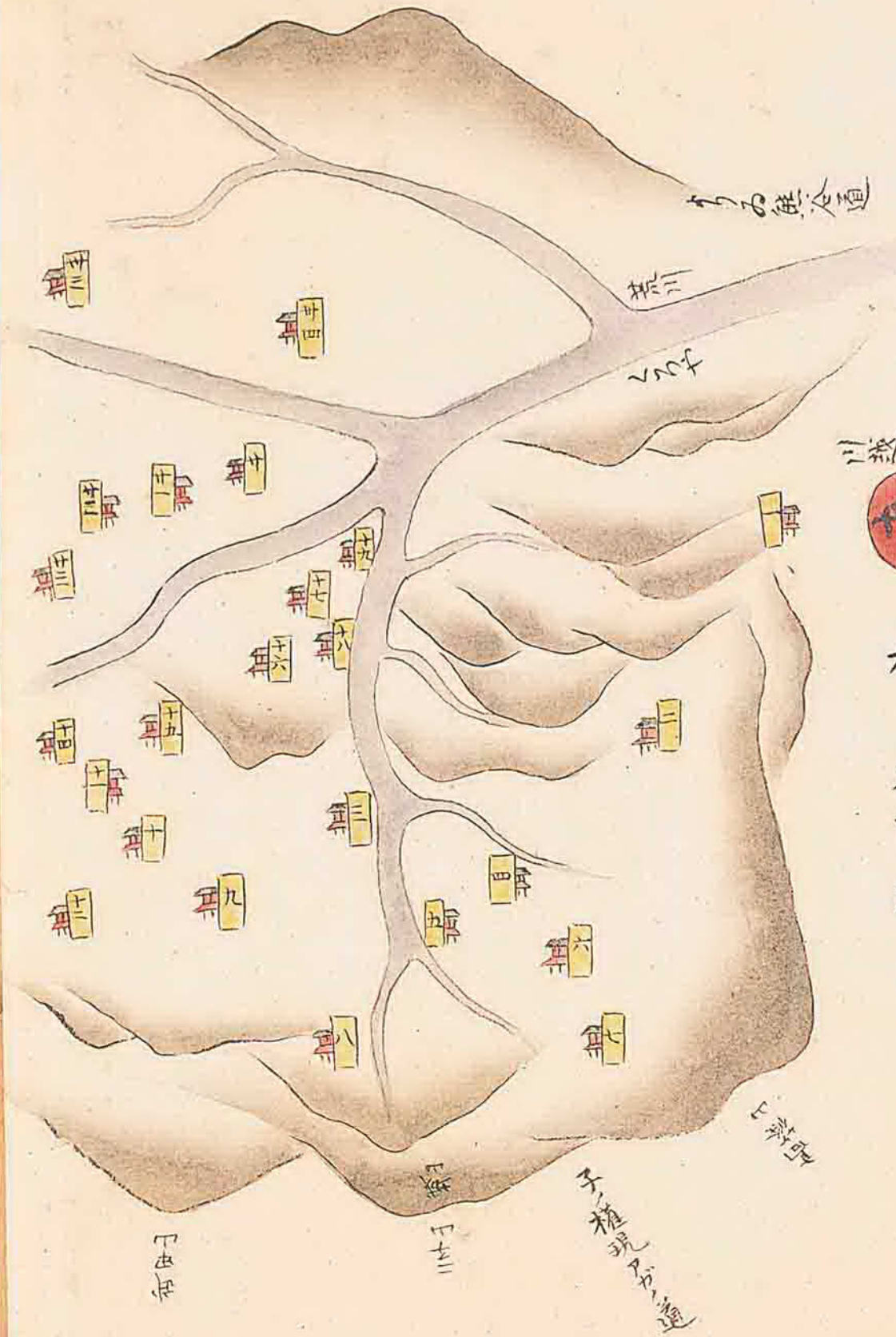
昭和五年八月日

竹溪編書坦之記

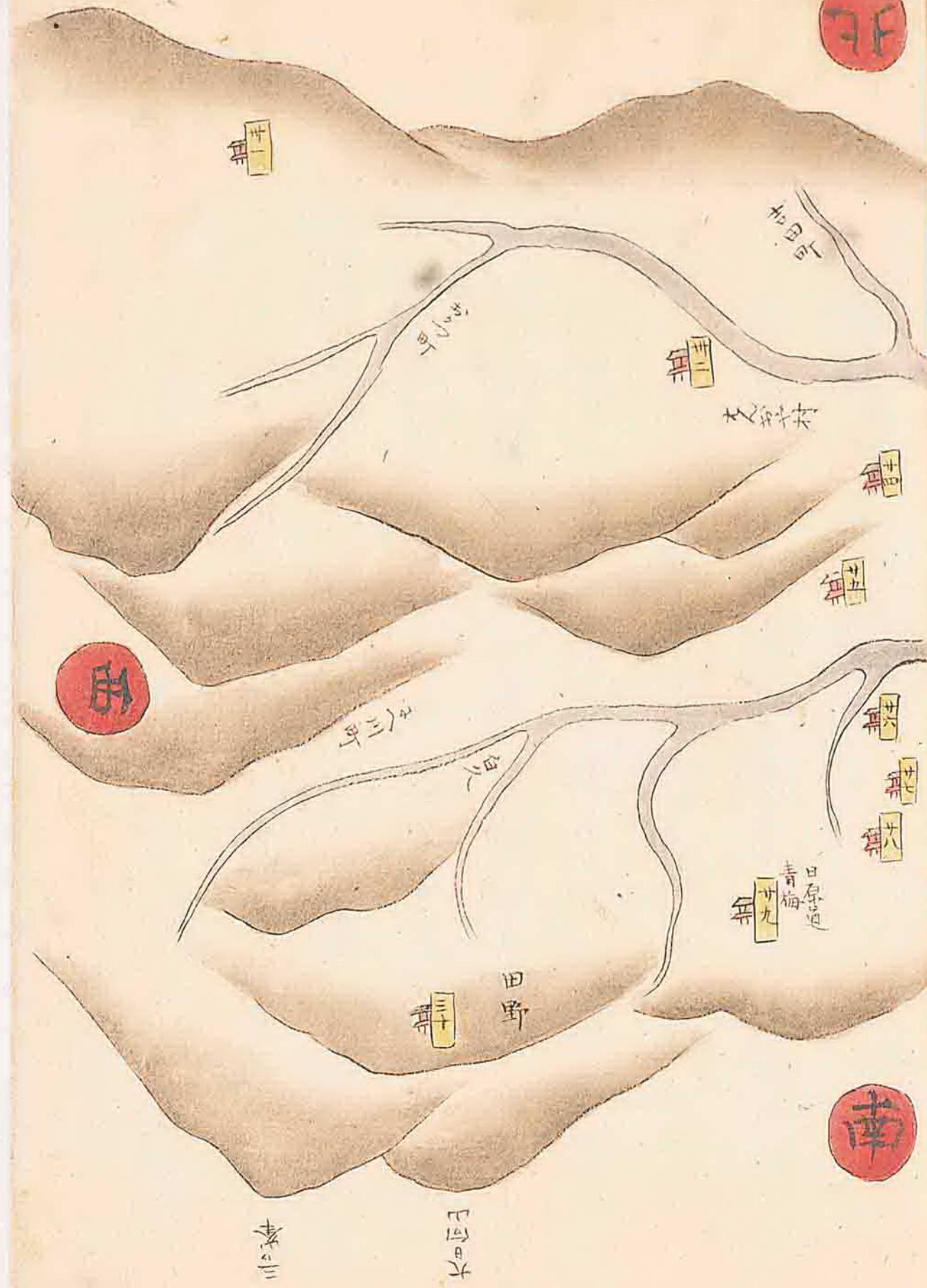


秩父札所摺圖

東



北



南

秩父順拜記卷之壹

はま〜あ〜人々〜小あき〜とた〜ぬの
ね〜と〜強〜名〜と〜へ〜己きた〜山あ〜ぬ
備何〜御〜り〜改〜耳順〜一〜す又生れつ
肉犯者〜か〜り〜多〜く〜と〜軍師〜る〜産業振る〜ふ
す〜職あるも〜ありるも〜せず世に〜と〜い〜山あ〜の〜ね
や〜ね〜ひ〜る〜と〜きの〜と〜ね〜と〜い〜と〜ね〜と〜い〜と〜ね
あ〜る〜と〜す〜と〜ね〜たり〜す〜と〜秩父〜山あ〜と〜例
石川〜と〜は〜ひ〜る〜と〜山〜の家〜と〜い〜と〜ね〜と〜い〜と〜ね
あり〜と〜ね〜と〜と〜秩父〜ひ〜る〜と〜山あ〜の〜用〜と〜す

所澤宿略図



中山道
秩父道

又より藤沢村と須賀村並柳村とて般能宿と世より
般能と云ひて下宿なりと世より七里と云ひ般能の子
檀現と云ひ吾郷毎々中津毎々つても道の程は同
りきと吾郷毎々いふ所川流も多て幾度も残る
給ひてより一里と云ひ中津毎々代りす一里も
中津宿よりふるせ給ひてこれ來の下宿なりと云ふ
す又宿と云ふなりと云ふ所はより一里と云ふ所
よりて檀現より下宿より一山宿富倉と云ふ宿
らと給ひて細くありと云ふ所はより一里と云ふ
所宿と云ひ一里宿の事なり寺ニテ寺某寺禪宗

寺宿と云ひ一里宿の事なり寺ニテ寺某寺禪宗

実洞院 言 此所はより一里 武新野話曰天正文禪の以て

八幡念みらのより河原小宿 今ハ上野井 と云宿今山と云

中より某師堂 今の家 といふ所の世よりある事と云ふ

の後新田義宗と云ふのをよりある事と云ふ

時より新田義宗と云ふのをよりある事と云ふ

新田自性院と英源宗庵と云ふ所の遺を世よりある事と云ふ

此よりと云ふ所はより一里と云ふ所の遺を世よりある事と云ふ

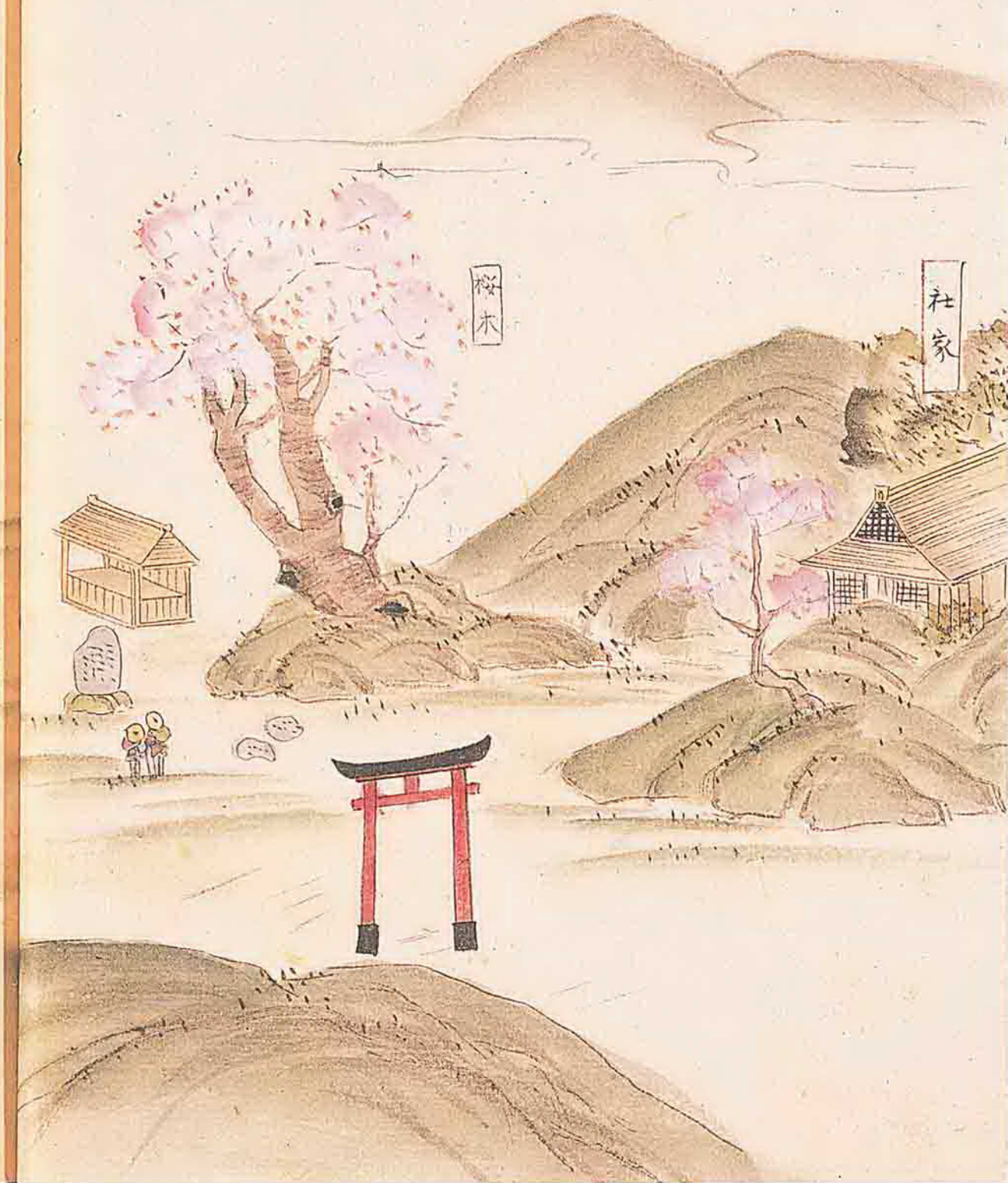
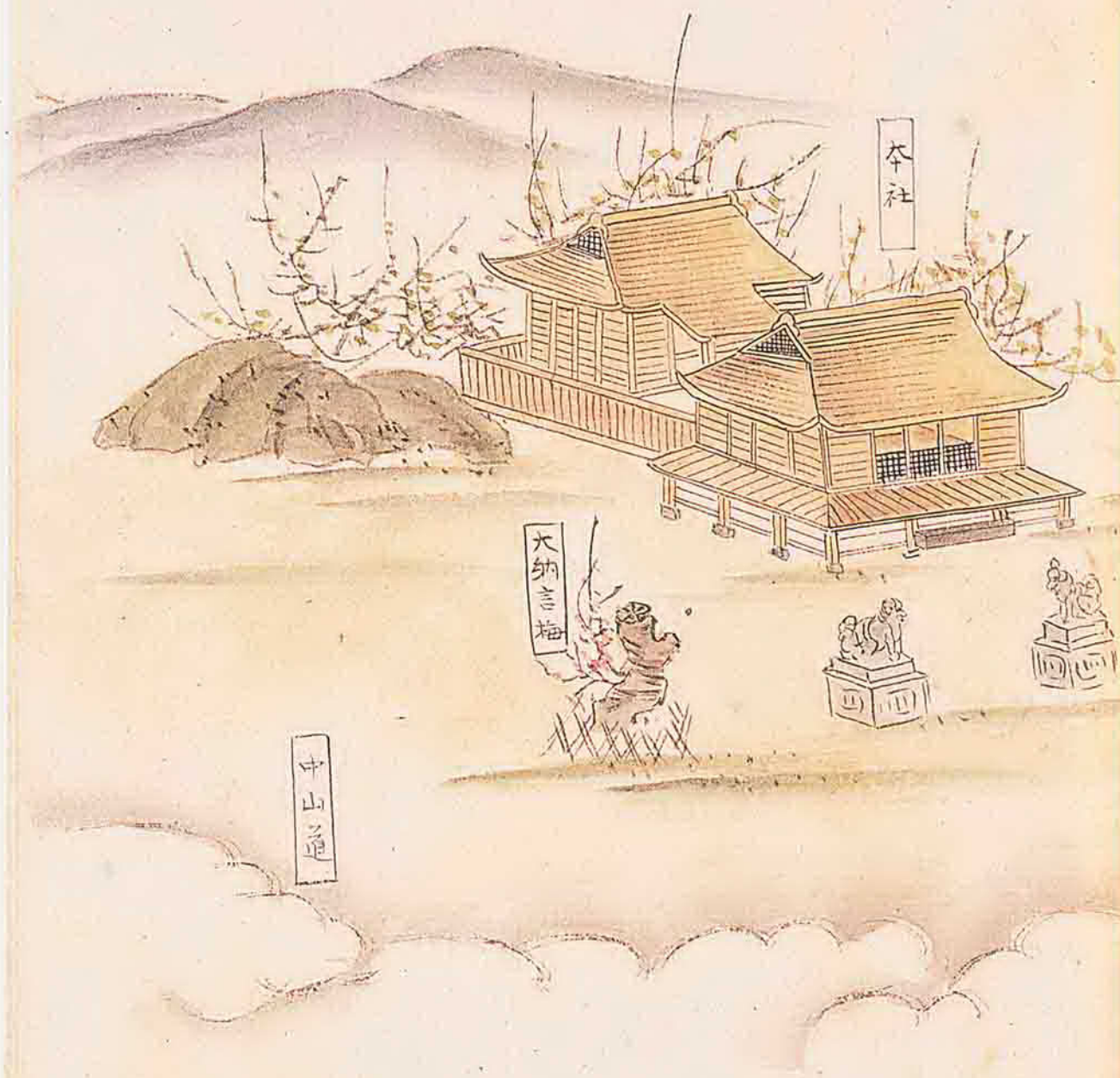
新小造と云ふ所の遺を世よりある事と云ふ

寺よりと云ふ所の遺を世よりある事と云ふ

何れもいささかあれは一所余り立居る人ありて同は
なり又乃一とあるは太細く中廣きなりと云ふなり
又又二箇ありていはいあへてあはれなりと云ふなり
あきハいさかたけありてあはれなりと云ふなり
何れと云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなり
能く同ハ吾は青柳のまゝなりと云ふなり
はきなりと云ふなりと云ふなりと云ふなり
中ハいさかたけありてあはれなりと云ふなり
と云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなり
也まハいさかたけありてあはれなりと云ふなり

湖くうのていしや村より萬神の祠とて古跡ありて能く
あきと云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなり
見たりと云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなり
小出のりふと云ふなりと云ふなりと云ふなり
のりふと云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなり
りふと云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなり
はきと云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなり
胃と云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなり
りふと云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなり
あきと云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなり
也まハいさかたけありてあはれなりと云ふなり

小野村天満宮図



為東の如く所の志を中絶しつゝの事
ふも何事とてしるべきや其の如く
る一川雖も富村とては武蔵野の如く僅
ゆるたるは故に古蹟とあるべしと心するは
るまは別あるべし

古き為東の太平記を十義貞理友の巻
三十一武蔵の合戦の巻にふくむ後の武蔵野
合戦の事新あき簡く白石先生小社と神徳
何と云ふやと云ふてあつて編み後又青木氏
の四角漢録も編みとせしむるなりハ他は

す又ふも為東は古く東鑑よりえききと
小山合戦の所をきこしむるも同じき事あり
今一冊集る武蔵小の為東といふ
あり

君の志を所のとて何れ
すてしるべきなり

うて何れもやまの背のりよは林の中横四
御より防す境の廣くある也と田舎といふ
いふも古蹟といふも何れもなり
本社より又板青お敏の額を満ちしめて中山

大納言愛親郷の御筆に境内より太さる橋まで
あるぬみ有

此のうみを移し橋より武蔵野に
おろし山片橋ひと木代

享和二年蝶屋庵記

とる武蔵野の許は古文書より一箇より一
多くあるをハキリと

武蔵野路曰折々河橋山邸祠よりより
四十に下つてと

月云山邸祠よりよりよりよりよりより

社名神不知は武蔵野に云々山邸祠

よりよりより神邸七橋よりよりよりより

此社より延喜式の御記よりよりよりより

河宮栗原氏御記よりよりよりよりより

菅原南社よりよりよりよりよりより

よりよりよりよりよりよりよりより

よりよりよりよりよりよりよりより

と満ちるのちうに物部神社なり武内宿禰より有
伊勢尾張甲斐美濃越前越後佐渡丹
後但馬播磨之表都入石部物部神社を仰
是之古ハ此神社の地ニ宮座と建云々
物部之祖レ由縁曰中祀神後系云々
二年武内國入同郡の人物部の直廣成等
六人姓と姓き入同の若孫と姓すとも之を
入同郡小物部民の人居候と云々一と云々今
此神社と云々之粟束氏之郷此又出云々
伊波比の神社國謂地祇と満ち神小石原系

旧神曰神合殿と云々出雲伊波比の神
祠と國謂地祇也神社を入石部民の地を
ともいふと云々廢祠と云々此地と東洋也合
殿と云々祭りと云々一と満ちる代なり
一と此社と小部と云々神と姓すゆ々系の
小部のと神と云々遠ひする人多きゆ々合殿
としてその地あり物部神社ありと云々
と云々一粟束氏の郷古文書之通なり
應永天文弘治
の年等々
己上古文書の文を略す云々と
云々

ぬけあそび版能ハえの道は海を越えさうと作事
えのうらう海を越えさうと道さうと作事
町あり海を越えハ廣き道をさうと作事
と作事ありさうと作事ハ版能ハえの
及こしありのまゝお耕化をせよと作事
此先にと民衆をさうと作事ハ版能ハえ
す海沿て林の中とあり作事ハ版能ハえ
くさうと作事ハ版能ハえの山と作事ハ
あつたおと作事ハ版能ハえの山と作事
ら作事ハ版能ハえの山と作事ハ版能ハえ

尾州版能ハえの山と作事ハ版能ハえ
あつたおと作事ハ版能ハえの山と作事
此先にと民衆をさうと作事ハ版能ハえ
す海沿て林の中とあり作事ハ版能ハえ
くさうと作事ハ版能ハえの山と作事ハ
あつたおと作事ハ版能ハえの山と作事
ら作事ハ版能ハえの山と作事ハ版能ハえ
山と作事ハ版能ハえの山と作事ハ版能ハえ
ふたつと作事ハ版能ハえの山と作事ハ版能ハえ

しありうらな事すあてさるるをわしにいふも
けりと今あつてけとやふさ山を縁いとあや生草のひ
このけろしを竹筒るころくこあこのひとひて
遊覧する秘の能うさふはすて山の中にあふま
け交るんとしを思ふにさやもきつ秘まやふ
物と道とあふまて山と山との細なることある
ていふゆゑん若くあての村とてききかなあひく
けとけりあふまてとまも不定なれは秘一節出ま
るに道ひを秘するといふはたの目もさやけ
けとけりあふまてはけんよふも秘可なるの秘

そとあはけあふまていふを便りふらふり物をし
けとけりあふまて妻のうを秘目と秘をけりける
けとけりあふまてとあふまてとてたてに看飛する
妻のうをけりあふまていふといふともくともす
かろわひきと妻のうの秘は一節の秘とけり
るあふまていふもさふすふ秘のつくる
あふまていふとけりあふまて一里秘する
しよなけりあふまて山はかろけりあふまて
こあふまていふとけりあふまて山の頂とえ
さあふまていふのよふいふとけりあふまて

うさるうたうはるあ、松の皮のやうにしてるをしら
布（王のお目）あるうとや傳へ傳ふと云ねえのな
殿うこもききとる暇やう川よつきてよのや
能くわゆるやめとてとるをぬ

ぬ世松皮の代よりして又何乃耕るやあう
埋きあるうう皮一重のうとてうと
く重うぬきとまうとて又現れうとて
木はふりす横よりさるうたうこをぬくやあ
うもあうすのやうとてうとてあのを松
さあねの根あるうとてうとてうとてうとて

うとてうとて埋きたうとてうとてうとて
のやうあるうとてうとてうとてうとて
松の根あるうとてうとてうとてうとて
すもてあうとて松皮のやうとてうとて
皮もて着るやうとてうとてうとてうとて
て松皮のやうとてうとてうとてうとて
りて着るやうとてうとてうとてうとて
うとてうとてうとてうとてうとてうとて
社あるも松皮にけりてうとてうとてうとて

堂より見ゆる 額鏡して今ハ 松の木皮のしねようた
と三人種つゝは切れたつてしまふと数々も年
子凡四百の余りハ持つとそひよるゝれも居た
の家根青とをりりく一毛く又押解とたさ
りくくあひるゝとさるゝさるゝさるゝ者す
稀にねよとつゝも莫太あるとハりく上るゝて
鑑念八端より社必壊し後再建とさるゝ松
皮は昔月あるとやふといひく古くても居るの
家よりあるといふも古くてもす西原村の松皮も七人
の玉も此處よりくゝる西原の云ふもゆゝとそり

續日本紀元正天皇聖武天皇二年より西暦今七十九
十八人といふは遷一とさるゝと代とする西暦と名
すゝゆふくゝるハそき等の中より採集と教と
傳ふと又同書植木とて延暦八年十月に位
に位する金物后後任薨去とて西暦の人あり
る西暦の人後任後とてくゝる君見等の人の
宅跡あり又武人といふと其の教心集と武蔵
入間川傳ありのものとさるゝてみく首とくゝる西暦
流きゝるゝとくゝる西暦よりくゝるゝあるゝ
りくもくゝるゝとくゝる西暦川と伝ひく地は入間川

と云引る事入る川は旅舎あるさう此供あり
は其に民屋も流んをうけしといふ所す時より
一ふす所も流るれも定め流る東邊の所
に松皮のたう和列築曰海人藤井又武士の
家より不造松皮屋皆板屋造りとてこの位より
松皮葺の棟なりきりる日た他畧後一条帝は
化よりなり唐土よりと本徳祿又と云う
りや畧後

うて川よりあてよう流れようといふは
川向より民屋ありとて流るりこのとて
そのより流るす所は孫とて祖とてそのより
その流る所あり流る所は孫とて祖とてそのより
版能宿合あり

五川朝宗曰る畧川枝又那と我野村より流出國
入り那芝方村と凡二十里相流まう同國川
版能宿合村近お流荒川の旅舎ありとて
そのより流るす所は孫とて祖とてそのより
版能宿合村近お流荒川の旅舎ありとて
そのより流るす所は孫とて祖とてそのより

惡津峽之圖

谷ノ貫山

岩沢村

飯能

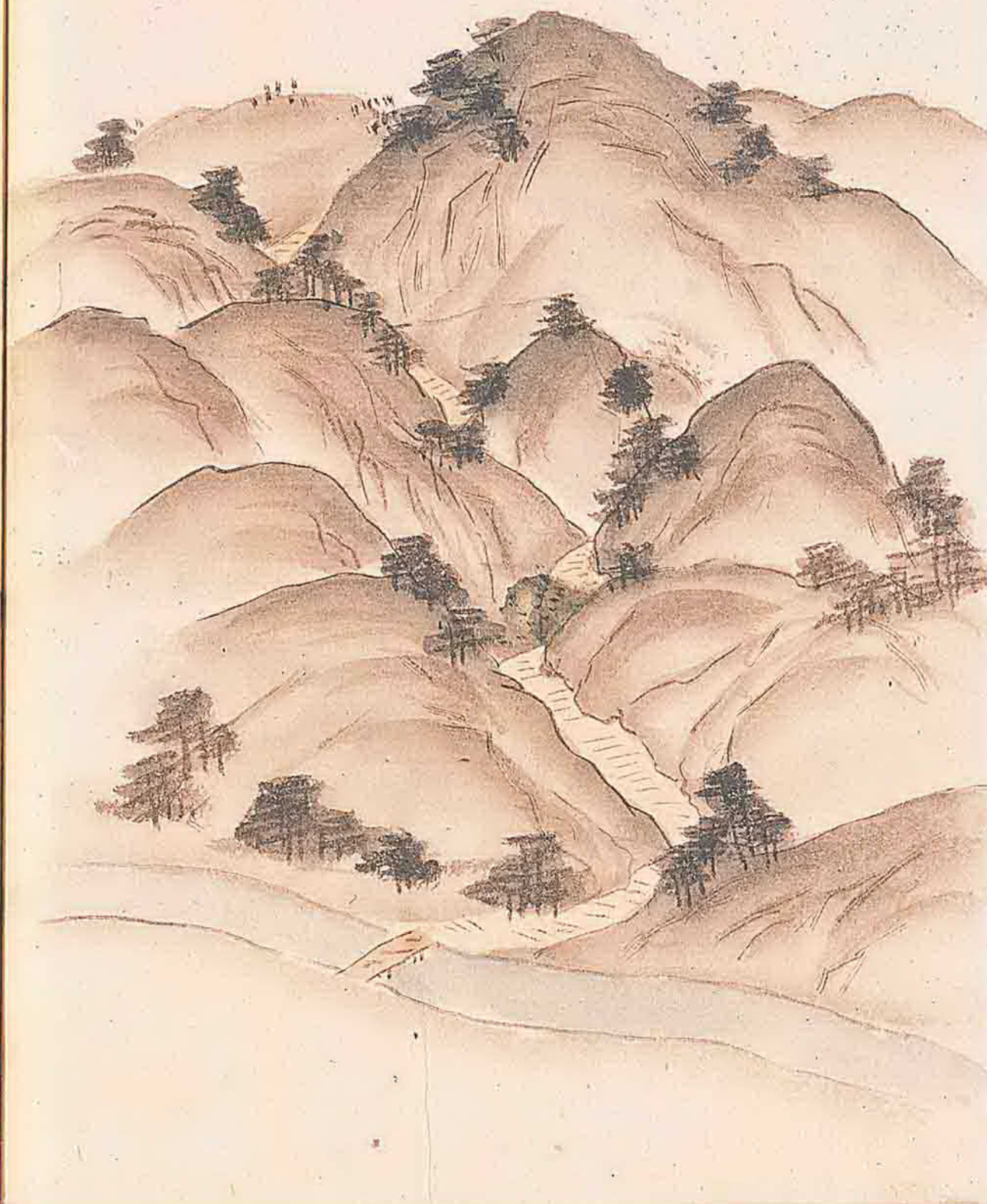
高瀬川



ありきり葉賣ありと樹ふくぬけ者も販賣家に
 すると同じく過紙ありはゆきと販賣家も是るや
 の横所裁断逆の方に販賣ゆきと市の日あるぬい
 たりんとしる者の名も似たるやうに一袋と作の
 家の外より幸ひ販賣ありと懇々世家の句ひに同
 くとりやうの若く家の外は横重ぬるも多くつ
 りすして世間の同やといふも東海舟師の者次
 るとハキマとたとハ杖入たま可なり江戸小出
 ち外の産物なるよりやそ若く久保又我師と
 ち可の同や伝きてち可の了と販賣と出す販

[illegible]

大ツク坂之図



ハ世に傳ふすと云いさすも能くある金
島と校會せしむる細書に傳ふるハ
不出來つゝあるに傳ふるゝと云ふ
中ぬ其の一二を記し之を見れば
あるが如く傳ふるハ大方に傳ふるゝと云ふ
しうく古跡ありて傳ふるハ大方に傳ふるゝと云ふ
親者の中を傳ふるハ大方に傳ふるゝと云ふ
中又古碑も伝ふるハ大方に傳ふるゝと云ふ
こゝありて傳ふるハ大方に傳ふるゝと云ふ
殿より傳ふるハ大方に傳ふるゝと云ふ

終つて高山の不動尊と云ふも傳ふるゝと云ふ
蓋は傳ふるゝと云ふも傳ふるゝと云ふ
中地常楽院新紙云言山系中堂風二石同村の傳ふるゝと云ふ
権現と云ふも傳ふるゝと云ふも傳ふるゝと云ふ
村と云ふも傳ふるゝと云ふも傳ふるゝと云ふ
相傳ふるゝと云ふも傳ふるゝと云ふも傳ふるゝと云ふ
の近くは古村と云ふも傳ふるゝと云ふも傳ふるゝと云ふ
け穴と云ふも傳ふるゝと云ふも傳ふるゝと云ふ
少いといふも傳ふるゝと云ふも傳ふるゝと云ふ
中地と云ふも傳ふるゝと云ふも傳ふるゝと云ふ

川幅も日々みみ六間程小見ゆ新清々ふみ中ま多
く能保めるもとあつても色はそくまより奇れ
眼より出る憶光さく云曹洞宗よりて此處平地あり
とを臨人の云世ありてちよふ也後くよと亭にれ
ううまう一町ありけい忠澄庵ありちうり山
殿のたて置へそまこの細路より山の登らせぬと云
是よりのおおえちうき人立の細道とてむある
お多し面程屋まの相神是よまといてあつて
杖地力にをみけけと出細く山後のあけく一草
るる山あまは是かやうてすぬて次なるのたに

き山あ細く流るちしきくへち木の本の葉隠きに民家
けう二町六町とやうに十丁もまへて一えち十安程のたに
てハ島代休め辛くやてのやうつさうあのおのり
まあて田舎を何きけ方そへ同ハ多程くる心えけ
の立出せあよりちしきくへちぬけお格別海
とつさく何ぬとて後くまあてはあやうあも
廣くれけ心の落るそへすあのとハあやうあ
ちるるへかちあやうあもいさひさあて過ぬ
るやといひて親なる信ハ田舎は産けうて格
子不程あうせり御堂の後ろふ山あま横路五町



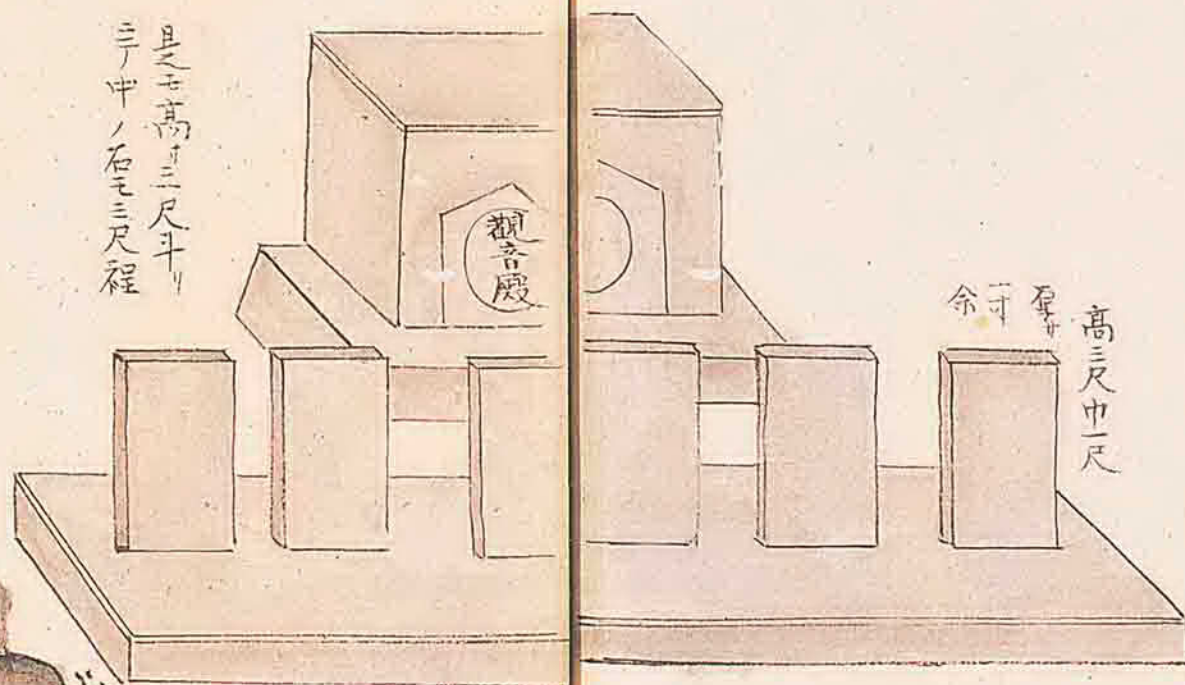
忠澄庵并岩屋觀之音圖



忠澄庵

此辺ヲ
坂石村ト云

岩屋之圖



足す美たに立あへる所の内なるやゝ表裏端をて
ては見えきとも文字あり何れ（其持部）の古印
（内）も末詳是非あり立出えの道と云は院名の碑に
しき

我新野詣云古く父まで見え古くして新野と
いふ所の内より、寺改めしるる下、鎌倉大双成
く、新野次郎といふる世に不慮の人々新野今ハ校
父新野て瑞徽祥も慶長の後去言とあり、同新
高、山常樂院来とあり、観音院といふ同新坂の村、
曹洞宗といふ新野古院庵として、新野六條を旧跡と

云傳ふゝわし、此少野といふ忠より、碑は古く代へる
と、新野氏古の旧跡あり、庵

